97年世界選手権大会熊本開催決定!!

去る9月9日、オランダ・ノードヴェイクで開催された国際ハンドボール連盟総会における投票の結果、日本は対立候補のエジプトに55票中44票を獲得、大差でエジプトを破り97年第15回男子ハンドボール世界選手権大会熊本開催が決定した。

昨年8月、日本協会・熊本県・市が合同で招致委員会を発足させ活発な活動を展開、今日の結果を得ることができた。今後は早い時期に組織委員会を編成、具体的な準備に着手する予定である。

皆様方のご支援に感謝するとともに、一層のご協力をお願い申し上げます。

（詳細次号）

日本協会だより

8月度常務理事会

日　時　平成6年8月21日(日)
12時10分～16時30分
場　所　名古屋市総合体育館会議室
出席者　中澤専務理事、常務理事6名

一、アジア大会について

アジア大会組み合わせ抽選結果について報告。

日本協会負担金について審議、提案通り承認。

日本協会役員及びAHF役員のスケジュールは日本協会事務局で調整することとした。

10月4日のウェルカムパーティーに常務理事全員出席の要請あり。

平成7年度にアジア大会記念として広島で国際大会開催について提案あり、世界選手権大会プレ行事との絡みもあり、10月に再度検討することとした。

二、世界選手権大会招致について

97年度世界選手権大会の開催地が決まる9月のIHF総会に対する準備状況及び、渡邊副会長、熊本県知事、熊本市長を中心とした代表団派遣について報告あり。

三、オーナー会議について

企業訪問結果を踏まえ、今後の進め方について討議。財源確保案を再検討、8月末までに修正案を作成することとした。

四、21世紀に向けての活性化について

ア　都道府県協会理事長宛アンケート内容の見直しを行い、近日中に発送することとした。

イ　全日本総合選手権大会の参加枠見直しについては、各常務理事が検討のうえ8月末日までに意見を出すこととした。

ウ　社会人大会については特別委員会を設置、検討することとした。

五、95男子世界選手権アジア地区第二次予選について

実施方法についてAHFに再度提案したが、回答未着の旨報告あり。

六、第20回日本リーグの開催日程について

ナショナルチームの日程を優先とした案を作成。会場確保に着手した旨報告あり。但し、AHFの日程が決定し、重複した場合は日本リーグの日程を変更することもあり得る。

七、競技用床マット（タラフレックス）採用について

次回常務理事会において検討することとした。

八、その他報告事項

ア　ヨーロッパ遠征中の女子ナショナルチームはスロバキアカップに出場、3位入賞。

イ　95世界選手権西アジア地区予選に、レフェリーとして後藤、清水ペアが出場。

ウ　アジア大会出場の男女ナショナルチームに対し、JOCより激励金が支給される。

以上

10月度行事予定

●大会

10/ 5～14　第12回アジア競技大会ハンドボール競技　広島

10/30～11/3　第49回国民体育大会ハンドボール競技体育大会　愛知県　豊田市／知立市／三好町

●会議

10/5～22　10月度常務理事会

※訂正とお詫び　前号で報告致しましたアジア競技大会スケジュールの中で、10月6日の大韓民国－サウジアラビアはクウェート－サウジアラビアの誤りでした。訂正してお詫び致します。なお、女子のトルクメニスタンは9月20日現在、不参加の見込み。これにより全ての組み合わせが変更される予定です。

■アジア大会の役員に三氏

第12回アジア競技大会の日本ハンドボールチームの役員として、次の三氏がドクター、トレーナーに決まった。

▽ドクター　河野　卓二

▽トレーナー　岡本　健　豊島　伸介

CONTENTS

《表紙》スロバキアカップ3位入賞でトロフィーを受け取る谷本選手

いよいよ開幕！
広島アジア競技大会

アジア競技大会競技施設専門委員（広島県協会常任理事）
山本　一

待ちに待った広島アジア競技大会の開会式を控え、アジア大会組織委員会（ＨＡＧＯＣ）も緊張に包まれています。開会式には天皇皇后両陛下を始め国内のＶＩＰや諸外国からも大勢の来賓がありま す。

今から８年前にソウルで行われた第10回アジア競技大会時のＯＣＡ総会で１９９４年の第12回大会が広島で行われることが決定しました。以来、アジア大会を広島で開催するに当たり諸準備を進めてまいった訳ですが、やっとその成果を試す日を迎える運びとなりました。

★　★　★

大会が決定してから今日までのいろいろな出来事が走馬灯の様に頭の中を巡ります。

この連載の中でも書きましたが、昭和20年８月６日、アメリカ軍によって投下された人類史上初の原子爆弾の洗礼を受け、廃墟の街と化した広島も、日本の驚異的復旧と共に西日本における中心地としての役割を果たすまでに復興し、人類の平和と反映を希求する国際平和文化都市として発展してまいりました。こうして戦後30余年を経た頃、時の広島市長・荒木武氏（元広島市ハンドボール協会会長）が中心となって国際スポーツ大会の招聘を決定し、アジア大会をターゲットとし、招致活動を行った結果が今日を迎えた訳です。

大会には当然ハンドボール競技の実施は入っていました。しかしながら大会までは充分日数もあるということで、ゆっくり準備活動をスタートさせれば良いだろうと呑気に構えていましたが、実際はそうでもありませんでした。まず大会の会場をどこにするかということでも、いろいろな事がありました。広島市を主会場とする事では異論はありませんでしたが、広島のハンドボール熱が盛んになったお蔭か、県北の都市三次市からもぜひハンドボールの試合を行いたいといった申し入れがありました。大変ありがたいお話で、ハンドボールの普及の意味あいからも、また広島県において日新製鋼と並ぶ一方の雄である湧永製薬の地元であるという点からも検討に値することでした。しかしながら、アジア大会に何チームの参加があるのかといった点や、大会会場を分散した場合のリスクの点などを考慮した結果、お断りすることになり、三次市をはじめ周辺市町村に大変迷惑をおかけすることになりました。

★　★　★

思い出されるのは１９８９年に北京のアジアハンドボール選手権大会を視察に行ったことです。

その年の６月頃でしたか、当時日本協会の役員であった市原則之さんよりアジア大会の開催される前にはその都市でアジア選手権大

会をしている様だし、リハーサル大会として広島で開催してはどうかという話がありました。そこで、開催するしないは別として、アジア選手権なるものがどういった大会なのか、8月の北京に行ってみましょうということになり、広島から山下副会長（当時）以下8名の北京行きを決めました。北京行きを決めた時、北京は天安門事件のすぐ後で、未だ北京市内は厳戒令下にあり、大会が本当にあるのか、また我々が本当に入国できるのか解らない状態でした。広島を発つ前日位に厳戒令が解けたといった情報が入り、少し安堵して出発しました。

福岡空港では、この時期に北京へ行く者がいるはずもなく、空港職員にけげんな顔をされ出国しました。北京では、まだ事件の爪跡は生々しく、ホテルからの外出は一切出来ません。しかしながら北京アジア大会を翌年に控えた北京のハンドボール関係者は、一生懸命大会運営に当たっておられ、我々海外からの訪問者に対しても本当に献身的な態度で接していただきました。

この時のAHF理事会で次回のアジア選手権大会は広島で開催ということが決定しました。この北京大会は2年後の広島大会を開催するに当たっては、非常に参考になりました。

★　★　★

当時は日本協会の荒川清美副会長（当時）がAHFの理事として活躍されており、荒川先生がアジア各国のハンドボール関係の人だけでなく多くのスポーツ関係者を知っておられたのには驚きました。また荒川先生にAHF関係者を紹介していただいたことも、後々非常に役立ちました。

当時、北京で我々の通訳としてお世話をいただいた李国棟氏は現在広島大学の外国人教授として広島に定住され、広島県協会関係者とも家族ぐるみのつきあいをしています。

北京より帰国後、さっそくアジア選手権大会の要項、予算を作成しました。会場と運営役員については、毎年日本リーグを開いていますし、あまり心配することもなく確保できましたが、問題はお金のことでした。いくらバブルの時とはいえ、今までハンドボールで2億近くの金を一大会で集めた事はなく、不安なスタートでした。当時は広島アジア大会の組織委員会も組織としては充分活動しておらず、各競技に対してプレ大会をするよう指導はしていたものの予算措置は全くされておらず、助成金を交付してもらうのに市役所に日参したのが思い出されます。日本協会の事務局の方にも外務省、文部省へ行ってもらったり大変だったろうと思います。日本リーグ関係各社にもオーナー会議を開催していただいたり、日本協会あげてご尽力いただいた結果、予定の金額を集めることが出来ました。その間の詳細はアジア選手権の報告書に詳しく記しています。

★　★　★

北京のアジア大会にも広島県ハンドボール協会としては、総勢30名からの視察員を派遣しました。派遣員はいずれも物見遊山的なことではなく、アジア選手権大会、広島アジア大会の運営役員の中核として働いていただく人達を選びました。北京でのアジア大会も相当な混雑もありましたが、大会としては素晴らしいもので、充分参考になると同時に、気分も引き締められる思いがしました。

そうして広島での男女アジア選手権大会を迎えた訳ですが、アジア各国の役員選手達と約2週間つきあった中で、国や民族によってさまざまな考え方、行動様式の違い等を実感することが出来ました。これらは広島のアジア大会を迎えるに当たって留意しなくてはいけないだけでなく、今後、国際大会を行う時や、国際人として行動していく上で役立つことと思います。

★　★　★

広島でアジア選手権を行ったのが1991年でしたから、アジア大会本番までは約3年間あり、少しダレ気味になっていたところへ突然に昨年の12月、広島で世界選手権大会東アジア地区予選の開催をという話が来ました。アジア大会を間近に控えて大変な時期ではあろうと思われましたが、役員の最後のリハーサルという意味あいからも受けてみようという事になり、実施しました。まだ記憶にも新しいところですが、当初参加の予定であったチャイニーズタイペイの不参加、さらに、全て組み合わせ日程も決定し、すでにポスター、プログラムも刷り終えたあと、カザフスタンの不参加決定など、アクシデントがいろいろありました。

これらのことも今になって思えば瞬間的には苦労したこともありましたが、楽しい話題となっています。

★　★　★

何はともあれ広島アジア競技大会の開幕は10月2日です。大会直前までいろいろな事がありましたが、気分を新たに、開会式を迎えたいと思います。そして10月5日より始まるハンドボール競技において10月13日に女子が、翌14日には男子が宿敵韓国を破って、君が代の演奏とともにメインポールに日の丸が掲揚される夢を見てその日を迎えたいと思います。

ハーフタイムで華麗なダンスを披露した
神戸女子商業高校のダンス部

全日本男子チーム

アジア大会に向けて好調な仕上り

全日本チームは最終戦、ようやく本来の力を発揮し、ハンガリー・エレクトロモス・ブダペストチームとの最終戦を飾った。

第一戦、二戦ともリードを奪いながらも後半の立ち上がりがいつも悪くズルズルいってしまったが、第三戦は防御、攻撃のバランスが良く、なかでも中山の復帰は、チームに大きな影響を与えている。ロングシュートが打てる中山の加入により、ポストの空間があき、ポストの得点力も首藤らで大幅にアップした。また岩本の独特なシュートも決まりだし攻撃に厚みが増した。

防御は三戦共非常に安定していて完全なノーマークは少なく、リズム感があり、更にGKとのコンビプレーも良くなった。

サイド攻撃があまりみられなかったものの、第三戦は源内、堀田の技巧が見られた。

課題は後半の立ち上がりの悪さの克服。これも精神力の持続につきる。全員のかけ声と、ここ一番でのチームの団結力と粘りのあるプレーがいかに出せるかである。

蒲生監督の狙い通りのチームづくりができつつある感じで、手ごたえをこの三戦でつかみかけたチーム、個人であったと思う。

日程があればあと三戦ぐらいしたいところであろうが、選手にも自信らしきものが芽生えたのは大きい。

それにしてもハンガリーの名門チーム、エレクトロモス・ブダペストチームは規律、秩序はじめゲームの取り組み、真摯な練習への態度とあきらめないプレーは全日本チームにも多くの教訓を与えてくれたことに、大いに感謝しなければならない。

ランニングスコア

［名古屋大会］

日　本	ハンガリー
首　藤 1	
	1コトルマン
岩　本 2	
	2コバチ
	3コトルマン
	4モハーチ
魚　住 3	
	5クルドマン
中　山 4	
	6ネーメト
(20分)	
源　内 5	
魚　住 6	
	7キーシュ
藤　井 7	
	8ケルテス
	9ケルテス
中　山 8	
	10ケルテス
中　山 9	
	11ブラコエビチ
	12ブラコエビチ
	13ネーメト
魚　住10	
	14ネーメト
中　山11	
中　山12	
	15ネーメト
	16ブラコエビチ
岩　本13	
	17ケルテス
末　岡14	
	18ネーメト
首　藤15	
中　山16	
	19コトルマン
末　岡17	
	20コトルマン
岩　本18	
	21ブラコエビチ
中　山19	
	22モハーチ
源　内20	

20−22

［神戸大会］

日　本	ハンガリー
魚　住 1	
	1コルトマン
魚　住 2	
	2ブラコエビチ
魚　住 3	
渡　辺 4	
藤　井 5	
	3モハーチ
渡　辺 6	
中　山 7	
	4モハーチ
中　山 8	
	5モハーチ
藤　井 9	
	6ケルテス
中　山10	
	7コバチ
	8モハーチ
岩　本11	
	9モハーチ
	10
	11コバチ
中　山12	
	12ブラコエビチ
中　山13	
	13モハーチ
	14ネーメト
	15モハーチ
	16モハーチ
	17モハーチ
	18モハーチ
藤　井14	
	19ブラコエビチ
	20クルドマン
	21ベチケレキ
	22クルドマン
岩　本15	
末　岡16	
	23モハーチ
中　山17	

17−23

［大阪大会］

日　本	ハンガリー
	1コバチ
魚　住 1	
藤　井 2	
堀　田 3	
首　藤 4	
	2ケルテス
藤　井 5	
藤　井 6	
	3ケルテス
藤　井 7	
	4モハーチ
	5ネーメト
首　藤 8	
	6ベチケレキ
中　山 9	
藤　井10	
首　藤11	
	7ベチケレキ
岩　本12	
魚　住13	
	8モハーチ
	9ベチケレキ
	10モハーチ
源　内14	
	11ネーメト
中　山15	
源　内16	
	12ネーメト
岩　本17	
藤　井18	
岩　本19	
	13ベチケレキ
源　内20	
	14コバチ
	15ケルテス
渡　辺21	
岩　本22	

22−15

日本・ハンガリー国際親善試合結果

第一戦(8/20)　於　志木市民体育館
エレクトロモス　26 {13−16 / 13− 7} 23　大崎電気

第二戦(8/21)　於　名古屋
エレクトロモス　22 {11− 9 / 11−11} 20　全 日 本

第三戦(8/22)　於　大同体育館
エレクトロモス　22 {10−12 / 12−10} 22　大同特殊鋼

第四戦(8/23)　於　グリーンアリーナ神戸
エレクトロモス　23 {10−11 / 13− 6} 17　全 日 本

第五戦(8/24)　於　大阪・堺市立大浜体育館
エレクトロモス　15 { 8−13 / 7− 9} 22　全 日 本

※エレクトロモス・ブダペストの通算成績は３勝１敗１分

全日本個人得点(対エレクトロモス)

		名古屋大会	神戸大会	大阪大会	合計
GK	橋　本	0	0	0	0
	林	0	0	0	0
	井　上	0	0	0	0
CP	田中雅	0	0	0	0
	魚　住	3	3	2	8
	富　本	0	0	0	0
	末　岡	2	1	0	3
	田中茂	0	0	0	0
	堀　田	0	0	1	1
	渡　辺	0	2	1	3
	三　輪	0	0	0	0
	中　山	7	6	2	15
	源　内	2	0	3	5
	首　藤	2	0	3	5
	岩　本	3	2	4	9
	藤　井	1	3	6	10
	高　木	0	0	0	0
	佐　藤	0	0	0	0
	高　田	0	0	0	0
	計	20	17	22	59

エレクトロモス・ブダペストの

ヤーノシュ監督に聞く

Q　監督自身の来日は何度目ですか？

A　前回は1990年に来日しました。その時は東京のみでした。今回は名古屋、神戸、大阪、京都を見ることが出来、楽しかった。特に京都は静かで、古都らしく印象が残りました。

Q　日本の印象は？

A　どこもよかったが、特に神戸の大会は、組織力、運営力、並びに雰囲気、体育館も素晴らしかった。

新幹線の速さにも驚きました。戦後50年近く経て、戦争の傷跡が全くみられない。また発展を遂げ、大きな建物が見られたが、欧州では例がない。

Q　今回の来日強化目的は？

A　リーグ戦を控え、試合を多くして、ゲーム感覚を養うことが第一。それと日本チームの速さを学ぶこと。

Q　ハンガリーでの日程は？

A　前期は9月4日から12月まで、後期は1月10日から4月末まで。今年は来年5月に世界大会があるため、日程を早めた。この間をカップオブカップ等の欧州の主な大会に出場する。

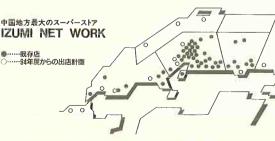
Q　日本のチームの印象は？

A　スピードがあるし、ジャンプ力もあり、一生懸命やっている。ただ戦術面で作戦が不足している。前に出るディフェンスのため、ゲーム後半にスタミナが切れる。

アジア大会はがんばってほしい。また熊本の世界選手権で日本とハンガリーが決勝で会えることを願っている。

Q　レフェリーにクレームをつける場面があったが…。

A　ホールディングなどに対しては段階的にとり、もっと退場させるケースがあったと思う。ラフプレーになってしまう。第一戦のペア（山本・菅田）は国際的であった。

日本協会、大崎電気、各地区の心遣いは有難かった。また選手担当の飯田氏のホスピタリティーにも感謝している。

女子ナショナル・ヨーロッパ強化遠征報告

世界の強豪と互角の戦い

小西　博喜

アジア大会広島を目前にしたヨーロッパ遠征の強化トレーニングも、いよいよ本番に入った。第一の目的地は、デンマークナショナルとの対戦を含めたアーフススポーツセンターのトレーニングである。デンマークナショナル（93女子世界選手権2位）との2ゲームは、現在日本のナショナルが175日の合宿中であり、そのトレーニング成果を問う次の転戦地スロバキアカップにつながる好内容のゲームで盛り上がった。

デンマークには、GKギッテン・スーセン（ノルウェー）国際試合数38、FPカミラ・アンデルセン（ドイツ）52／109得点、アンヤ・アンデルセン（ドイツ）52／260、ギッテ・マードセン（ノルウェー）50／118ら4名の選手がそれぞれトレードされていたのである。アマチュアとはいえプロの報酬選手で、アンヤ・アンデルセンは4年間ノルウェーに、2年間はドイツブレーメン所属で活躍し、多額の収入を得たことも語ってくれた。この素晴らしい個人技をもつ速攻チームに対して、日本は後半の6点差を追いかけ、同点にツメた気力・戦術のスピード展開は、デンマーク・クーンドセン会長が「ナイスゲーム」を連発される程、日本はデンマークのスピードに対抗した互角の実力を随所に発揮した。緒方監督、穂積コーチにとって今後の課題と新しい展望が見えてきた収穫の多い価値ある対戦であった。また、去る6月のオリンピックソリダリティに招聘したアラン・ルント氏（デンマーク）の町、GOGクラブと対戦し、親交を温めたのもよかった。

8月10日～15日、スロバキアカップに参加するため第二の目的地、スロバキア・パルチザンスカ市へ移動。ベラルーシの棄権により5チーム（スロバキア・ウクライナ・ルーマニア・ポーランド・日本）の総当りリーグ戦で開催された。

第1戦は日本対ルーマニアのオープニングゲームで開始。最終戦は優勝をかけた地元スロバキアとルーマニアの対決のはずだったが、日本の大健闘で予想は大きくはずれた。強豪のルーマニア戦では、後半、日本が逆転してから同点になること3回、勝つという気持ちよりも勝っても当然と思えるペース。ルーマニアのベンチは総立ち、引き分けという予想もしない事態が生じたから大変な騒ぎとなった。もう館内は歓声と笛、太鼓等でレフェリーの笛も聞こえず、試合が中断してアナウンスが入る程興奮は最高潮に達した。日本女子ハンドボール界が夢見た大金星の一瞬である。外国役員たちは、「日本チームはマフィアだ。ベリーグッド」の称賛と握手。お蔭で日本のバッヂを役員からせがまれる。早速ルーマニアカップに招待したい要請があった。スタッフと相談し、今回は辞退することにした（韓国参加）。第2戦のポーランドは、勢いに乗った日本が順当の勝利。第3戦のウクライナは190cmに近い4名の長身を揃えたディフェンスを如何にして崩すか、また如何に守るか。厚いカベはGKがかくれてしまう程の高さ、おまけに大きなストライドと俊足を生かしたダッシュスピードは、ヨーロッパ的速攻の課題である。日本は必死の守りで頑張った。しかし、体力的ハンディでは退場者を出さずには守れない。日本は後半の19－19から息づまる大接戦を演じた。29分、22－21とウクライナがリードした瞬間、勝負あった！と思うタイムアップ直前、日本は「ヤッタ！」という奇蹟のゴール。誰がこの歓喜の一瞬を予測しただろうか。もう天命を待つしかなかった。しかし、失敗を恐れず大胆にわたり合う思い切ったプレーが、ルーマニア戦の後半ごろから流れを変えている積極さを称賛したい。

第4戦のホームチーム、スロバキアとは体格的にもよく似たタイプで1点差の惜敗にヒケは取っていない。ただレフェリーが地元有利な過剰気味のケースが再三みられ、他国役員からも同情の声すら聞こえる苦い経験となったのは残念。しかし、「日本3位」という日本女子ハンドボール界にとっては、まさに画期的な史上初の快挙が誕生したのは見事。

第三の目的地、チェコ・プラハでは、チェコ、ノルウェー戦の2ゲームがあり、ノルウェー（93年女子世界選手権3位）と親善マッチ（30分）が出来たのはよかった。この後、チェコ、ノルウェーは、共にウィーンのカップに参加するとのことで、日本にとっては惜しいチャンスであった。

今後、各国のナショナル強化の「〇〇カップ」情報を入手し、遠征スケジュールの中にドッキングできるようエントリーすることが海外強化対策には欠かせない重点施策であることを強調したい。今回の各国とのアポイントを今後に役立たせてほしい。

それにしても今回、2度にわたって考えてもみなかった劇的な引き分けシーンを演じた日本の底力は、どこまでレベルアップしたのか、どこから「神ワザ」的エネルギーが爆発したのだろうか。勿論、要因の一つに考えられるのは、緒方監督、穂積コーチの責任において特訓成果を具体的に実証されたことと、今、選手自身が「やる気を持てばできる」という使命感を持った自覚の175日合宿の成果が、未知数ながら徐々に培われつつあることを示唆するものと確信する。目前に迫ったアジア大会では、あの感動の一瞬を再現し、新生日本女子の新しい情熱、勇気、力によって新しいドラマが誕生することを期待したい。

終りに、緒方監督、穂積コーチの労苦を心からねぎらいながら、選手の皆さんが挑戦する青春ドラマは、まさに〃木の葉が沈み、大岩が動く〃担い手の舞台であるだけに期待がかかる。日本の切り札〃マフィア〃的プレーで奇蹟が呼べるかやってみたい。全国ファンに見せたい思いが走る。共産圏の真摯なプレーを期待しよう。

また、今日までご理解とご支援を頂いた各企業関係の方々、関係各位の皆様に深甚の敬意と感謝を申し上げ、アジア大会兼女子世界選手権アジア予選に心を寄せ遠征報告としたい。

全日本女子チーム欧州遠征

ナショナルマッチについて

全日本女子チーム監督　緒方　嗣雄

全日本チームは、4月10日よりスタートした長期合宿の強化の一環として、戦術の応用とテストを兼ねて欧州武者修行に出た。

デンマークを皮切りにスロバキアとチェコを転戦、デンマークナショナルと2試合と親善試合1試合を行い、スロバキアではスロバキアカップに出場（ウクライナ、デンマーク、ポーランド、日本）し、総当たりリーグ戦。チェコでは、ノルウェーナショナルチームとトレーニング試合を始め親善試合7試合、トレーニングゲーム1試合。遠征期間中17試合を行うハードスケジュールであったが、当初の予定通り戦術の応用とテストを重ねて行う事ができた。豊富な試合経験で、アジア大会に向けての強化が図られた。

一．デンマーク

ナショナルチームと二戦。久々の緒戦の緊張と旅の疲れで、DF、OF共にチーム戦術の良い面は多く出なかったが、個人技術で良いプレーが多く出た試合であった。2戦目にはDFシステムの良い面が出て、ロングシュートを打たせない。ポストに入るボールのカット、退場者が多く出たもののDF戦術は成功した。OFでは速攻時のミスが多く速攻の得点が取れなかったが、ロングシュートには自信を持つことができた。世界の強豪のデンマークを相手に、まずまずの試合内容であった。

親善試合の一試合はナショナル選手4名が入っていたが、全日本の気迫、勢いが勝り、遠征初勝利を得た。

二．スロバキアカップ（パルチザン市）

一日2試合対戦するチームが出たために、1試合14名の選手で試合することになった。我々日本チームにとっては、多くの選手に経験を積むことと、多くの戦術テストが出来ることで幸いした。緒戦のルーマニア戦で連続6点先取され度肝をぬかれたが、高いDFラインから速攻に繋げ逆転する場面もあったが、結局引き分けとなる。

ある程度良い試合が出来る自信をつけた緒戦であった。ポーランド戦、戦力ダウンしているポーランドには何なく勝つことができた。

●遠征試合結果

8月6日　①対デンマークナショナル　シルキーボグ
　日本　23−27　デンマークN
8月7日　②対デンマークナショナル　オーフス
　日本　20−26　デンマークN
8月9日　③対GOG(クラブチーム)　グッドメー
　日本　36−33　GOG　(35分ハーフ)
8月12日　スロバキアカップ　パルチザン
　1日2試合のため14名
　④対ルーマニア
　日本　23−23　ルーマニアN
　⑤対ポーランド
　日本　22−17　ポーランドN
8月13日　⑥対ウクライナ　パルチザン
　日本　22−22　ウクライナN
　⑦対スロバキア
　日本　28−29　スロバキアN
　(順位)①ウクライナ3勝1分　②スロバキア3勝1敗　③日本1勝2分1敗　④ルーマニア1勝1分2敗　⑤ポーランド4敗
8月16日　チェコ　ニーンブルグ
　⑧対シュラブッツプラハ　20分×3
　日本　41−11　シュラブッツプラハ
8月17日　⑨対ノールウェイ　ニーンブルグ
　日本　16−19　ノールウェイ
8月20日　⑩対フルジム(エスカピ・パルディユクサ)Jr　ニーンブルグ
　日本　33−14　SKPパルディユクサJr
8月21日　⑪対フルジム(エスカピ・パルディユクサ)　フルジム
　日本　38−14　SKPパルディユクサ
8月23日　⑫対バッドフェールスフィルド(ドイツ・ヘッセン)　ニーンブルグ
　日本　33−13　バッドフェルスフィルド
8月26日　⑬対バッドフェルスフィルド(ドイツ・ヘッセン)　ニーンブルグ
　日本　33−18　バッドフェルスフィルド
8月27日　⑭対チェコジュニア　ニーンブルグ
　日本　32−18　チェコジュニア
8月29日　⑮対チェコジュニア　ニーンブルグ
　日本　33−16　チェコジュニア

遠征試合結果

※（　）内は７ｍスロー

対戦相手	川島	村山	市来	小松	比嘉	貴田	小俣	谷本	西村	本間	西口	土師	荒川	上出	松本	山川	田中	計
8/ 6 デンマークN	0	0	1	1	4(3)	4	−	2	0	−	−	1	−	2	−	5	3(3)	23−27
8/ 7 デンマークN	0	0	3	−	2	1	2(1)	3	−	−	0	−	−	1	3	3	2(2)	20−26
8/12 ルーマニアN	0	0	1	1	1	5	2	1	0	−	2	0	−	4	−	3	3(3)	23−23
8/12 ポーランドN	0	0	0	0	1(1)	1	2(2)	3	1	−	0	−	−	6	2	3	3	22−17
8/13 ウクライナN	0	0	0	−	2(1)	6	3	0	0	−	0	0	−	0	3	5	3(2)	22−22
8/13 スロバキアN	0	0	0	2	4(3)	7	0	5	0	−	0	−	−	2	1	3	4(2)	28−29
8/16 シュラブッツプラハ	0	0	1	2	1(1)	2	7(1)	2	2	−	6	5	−	4	1	0	8	41−11
8/17 ノルウェーN	0	0			2(1)	5	4									3	2(1)	16−19
8/20 SKPパルディュクサJ	0	0	3	4	4	1	6(1)	0	1	−	1	3	−	1	3	−	6	33−14
8/21 SKPパルディュクサJ	0	0	4	2	−	−	0	0	0	6	2	4	−	5	4	4	7	38−14
8/23 バッドフェルスフィルド	0	0	4	1	5(3)	8	1	2	0	−	0	1	−	3	−	6	2(1)	33−13
8/ 9 GOG	0	0	6	3	5(1)	3	2	1	1	1	0	2	−	8	−	−	4(3)	36−33
8/26 バッドフェルスフィルド	0	0	1	−	8(2)	−	3	2	0	−	0	3	−	3	−	5	8(3)	33−18
8/27 チェコジュニア	0	0	4	1	5(2)	5	1(1)	0	0	−	1	−	−	4	−	4	7(1)	32−18
8/29 チェコジュニア	0	0	3	3	5(1)	2	−	2	−	1	0	3	2	5	−	3	4	33−16
	0	0	31	20	49	50	33	23	5	8	12	26	2	48	17	47	66	−

ウクライナ戦、スロバキア戦は一進一退のゲームで1点を争う好ゲームを展開して1分1敗。スロバキア戦の1点負けは、退場者を多く出して大事なところでPTを取られる最悪の状態での試合であった。ウクライナ戦では、速攻チャンスでも無理して速攻に持って行かずセットOFで臨んだ作戦が成功して引き分けに持ち込めた。この大会の成績は1勝2分1敗で3位。山川選手が優秀選手に選ばれた。東欧地区の強豪相手に、成績も優るが、どの試合も1点を争う好ゲームが出来たことに大いに満足であった。また、山川選手の変幻自在なプレーに優秀賞は大いに自信になったことであろう。全試合を通じDFの向上とチームプレーの向上が見られた。選手の持ち味が大事なポイントで発揮出来るようになり、精神的にも強くなってきた。

三．チェコでのトレーニング（ニーンブルグ）

この地区での合宿も三度目となり、慣れた環境でトレーニング、試合をすることができた。ノルウェーも丁度合宿に来ており、トレーニングマッチをすることが出来た。チェコジュニア他クラブチームは、相手として物足りないチームであったが、予定通りトレーニングを行ない、成果を上げることが出来た。この遠征で得た大きな自信は、広島アジア大会で充分発揮致します。

また、この遠征に際しては多くの人にご尽力頂きましてありがとうございました。

欧州遠征記

スロバキアにて

谷本　泉

デンマークよりスロバキアに移動した。ここでは、スロバキア、ウクライナ、ルーマニア、ポーランド、日本の5チームで行われるスロバキアカップに参加した。

デンマークでの課題は、攻撃確率、シュート確率のアッププラス。それを高めるために丁寧なプレーを心掛けてミスをなくしていくこと。それと合宿に入ってしてきた戦術を試してみること。DFでは、ポストの守り（ポストにボールを通させない、またはカットしていく）を強く言われている。

全試合を通してDFは、強くなってきているように思えた。体格の大きくて重たいポストプレーヤーに対して、簡単にボールを通させていなかったし、いくつかのパスカットもあった。

ルーマニア戦では、同点残り3分、なんとか守って攻撃に持っていきたいのだが、相手も粘ってフリースロー。必死の守りでそのままゲーム終了の笛まで3分間守り続けてしまった。自分たちにとって3分間守り続けたことははじめてのことだ。私はベンチにいたのだが、すごい緊迫した気持ちで守っていただろうと思う。だから、その最後の守りは自分たちのチームにとって大きな自信になったと

思うし、苦しい時にみんなが思い出してほしい。
　ＯＦでは、個人の持ち味が発揮できていた。特にフローターのロング、1対1からの展開がよかった。大きいＤＦでもロングを打ち込めるんだとフローターの人たちは体で感じただろう。そのロングを生かしていくためにも私はポストの役目のブロックをもっと覚えて、思い切りロングを打ってもらえるようにしていきたい。個人プレーが決まっている時は、どんどんしていけばよいし、もしダメな時、全体の動きを使っていくように監督から言われた。自分は特に、それをうまくゲームの流れを見て切り替えていけるように気をつけなければならない。
　優勝したウクライナチームとのゲーム。速攻のとても速いチームだ。3点の走りが速い。走るスピードだけでなく、彼女たちはゲーム展開を読んでいるからスタートのタイミングがうまく、さらに速く速攻にもっていけるのだった。私たちも、彼女たちのように、走りプラスタイミングでいち速い速攻を修得したい。ウクライナ戦は、残り1秒のシュートが決まり同点として終了し、うれしい引き分けだった。
　この大会を終えて、あと2ケ月後のアジア大会をすごく近くに感じた。

チェコにて

田中　美音子

8月15日にチェコ入りして、8月29日までの2週間のうちにチェコのフルジムの町のクラブチームと2試合、ノルウェーのナショナルチームの若手選手と20分を2本、ドイツのバットヘルスフェルドというクラブチームと2試合、チェコのジュニアと3試合、チェコのスラッシュプラハと1試合しました。
　アジア大会でカザフスタン、トルクメニスタンという元ロシアの国々と試合をしなければならないので、ヨーロッパの大きさ、パワーのあるチームと試合ができてよかったです。ヨーロッパのチームの攻撃としてはポストに落とすプレーが多く、自分たちのパワーでは相手に押し込まれて警告を取られるケースが多かったです。逆速攻でのスピードも速く、走り負けしている部分もありました。ＤＦもだいぶ良くなってきていますが、もっと攻撃的なＤＦが出来る様にしていき、パワー負けしないためにもっと力をつけていくべきだと思いました。攻撃でも2、3人のコンビで点を得ることは出来ているのですが、全体でのコンビで点が得られていないので、これからもっとしっかり合わせていきたいです。
　自分自身では、大きい人に対して正面からいっても負けてしまうので、身長の低い私は小さいなりにスピードで負けない様にしました。ブラインドを使ってのシュート、カットインなどスピードプレーが出来るよう、そういうところをもっと伸ばしていかなければいけないと思いました。アジア大会では遠征での成果を生かして、試合では応援に来ている人達に感動を与えるプレーをして、一戦一戦勝って金メダルを首に下げたいです。

デンマークにて

市来　未央

8月4日にデンマークのオルフスという街に着きました。デンマークは日本の気候と違って、気温が低く風も冷たくてとても過ごしやすく、朝晩は長袖を着ていないと寒いくらいでした。
　8月6、7日とデンマークナショナルチームとゲームをしたのですが、このチームは昨年の世界選手権で第2位という成績をとったチームです。私達も世界のトップレベルのチームと試合ができることはアジア大会に向けて良いステップになったと思います。
　ゲームでは体格の違いもあり、パワーで押し込まれるケースも多かったです。特にポストにボールが入ってしまうと、必ずといっていい程得点か、反則を取られていました。レフェリーの笛のタイミングも日本と違って少し遅いため、日本でプレーをしている感覚だと守れなかったです。試合以外で驚いたのは、観客の人数が多いことと、観客の人がルールを良く知っていることです。そしてナショナルプレイヤーの日常生活のテレビ放映や車のＣＭに出るための撮影があったりしたことです。とてもハンドボールが盛んなので、ママさんハンドボールもあり、日本では考えられないことでした。今は簡単に国際ゲームはできませんが、もっと若い選手が早くから多くの国際ゲームができたらとても良い経験になると思うので、機会があれば数多く試合をさせて行けば良いと思います。
　最後にアジア大会では、今回の遠征で得たことを生かし、観客の人に感動を与えるゲームができたら良いと思います。

インターハイに優勝して

男子優勝

創部7年目の全国制覇

香川中央高校

亀井　好弘

全国高校総合体育大会が富山県氷見市で7月31日から8月6日まで行われた。香川中央高校も予選を突破し、7月30日、氷見市に入った。全国選抜大会で優勝したが、選手、監督の心の中には、「自分たちのゲームをしよう。その結果、勝っても負けても悔いはない」と思ってゲームに臨んだ。

1回戦は不戦勝、2回戦は都城工業高校で2年生主体の若いチームではあるが、思いきりのよい、はつらつとしたチームであった。香川中央にとっては、初戦ということで心配していたが、速攻がうまく噛み合い34－11で勝つことができた。3回戦は、レベルの高い千葉県の二松学舎大学附属沼南高校で、テクニックとスピードあるハンドボールについて行けるかどうか不安であった。しかし、いざゲームが始まるとディフェンスの連携がよく集中力も持続でき、失点を最小限に抑えることで19－6で勝利を手にした。

準々決勝は、パワーがあり、ロングシュートにすぐれ、ディフェンス力のある大分電波高校。苦戦が予想されたが、前日のディフェンスの好調さがそのままこの日にも現れ、17－8と予想もせぬ結果になった。準決勝は、名門横浜商工。ここ数年、運よく全国選抜大会、インターハイ、国体と連続出場させてもらっているが、公式戦で横浜商工とは対戦したことはなく、大きな大会で対戦できる喜びのような気持ちがあった。洗練されたパス回しからのシュートと、名門である勝負強さの前に、香川中央の生徒たちがどんな試合をするか楽しみであり、私の心は、勝敗以外のところにあった。

審判の短く引き締まった笛の合図でゲームが始まった。10分で7－1とリードしたが、それから相手の実力が発揮され、追い上げられたが2点リードで折り返す。相手の追い上げムードのなか、嫌な予感がしていた。ところが、後半が始まると、ディフェンスの調子がよくなり、見たこともないようなくらい足が動き、ゴールキーパーが止め、速攻が決まり、24－7で決勝進出を決めた。

決勝の相手は、得点能力の高い北陸高校。前日のミーティングでマンツーマンをするか、しないかを話し合ったが、今大会6人のディフェンスとゴールキーパーの調子がいいということで、今まで通りのディフェンスをしくことになった。試合は、北陸高校が先行し、香川中央が追いついていくという形で展開していった。ここまで1試合平均8点という失点の少ないディフェンスであったが、前半終わった時点で10－10と同点ではあるが北陸優位のゲームの流れであった。後半に入り、一進一退のゲームは変わらず、終了70秒前に放ったシュートで同点に追いつき延長戦となった。ひとりひとりの役割をはっきりさせ、今までやってきたことをやろうということを言って、延長戦に送り出した。結果は22－21で優勝することができた。

香川中央高校は、創立8年、創部7年と歴史の浅い学校ではあるが、昨年の東四国国体の強化指定校となり、いろいろな援助してくださった結果が今年に表れていると思う。優勝は、選手の日々の努力、地元の温かい援助、練習試合をさせて頂いたチーム、いろいろなハンドボールの話を聞かせて頂いた諸先輩方、香川県ハンドボール関係者のおかげであり、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。また、氷見市に入ってから、離れるまで細やかな気遣いで、常に部長、監督、選手を最高の状態でゲームに臨ませて頂いたチーム係の薮田さんには、係を越えてお世話頂き、ありがとうございました。

さらに、長年にわたり大会の準備、運営に携わってきた皆様に、心から感謝するとともに、魚と史跡の町、氷見が生涯忘れられない思い出の地となったことにお礼申し上げます。

女子優勝

初の全国制覇への道

京都府立洛北高校

楠本　繁生

洛北高校は明治3年、京都府中学校（日本最古の中学校）として開校、同34年、京都府第一中学校と改称し、高等学校としては昭和23年に発足、同25年に創立されました。ノーベル賞受賞者の湯川秀樹氏、朝永振一郎氏をはじめ多くの著名人が卒業し、現在においても校舎などから偉大な歴史と伝統を感じることができます。私がそんな洛北高校に赴任したのは今から8年前のことです。2年後に地元京都での国体を終え、選手という立場から指導者としての道を歩み始めた私にとって、失敗や予期せぬ壁の連続で、そこから抜け出したいような気持ちになったことも何度かありました。そんな時、いつも私の恩師が助言をくださり、その言葉は今でも大きな財産の一つになっています。

初めて全国大会の出場権を得たのは、3年前の静岡インターハイでした。1回戦の相手は熊本女子商業高校（熊本国府）で、結果は惨敗であったものの、遠方から応援にかけつけてくださった恩師の姿に感謝の気持ちを持ったと同時に、「今度こそは！」という強い意欲を胸に帰京したことが、今も思い出されます。

翌年の宮崎インターハイ、そして栃木インターハイと連続出場しましたが、ベスト8まで進んだものの全国の厚い壁にたたきつぶされ、何度も自分自身を振り返った2年間でした。その間、恩師を含め諸先輩方や多くの人々にあたたかくご指導いただき、励まされました。

昨年の東四国国体後、新チームに変わり、まず選手たちに一年間の目標をもたせ、目標達成のためには一人一人が努力を惜しまず、一日一日を大切に練習を継続しなければならないことを個々に意識づけました。今年の富山インターハイを目の前にして、チーム状態は決して良いとは言えませんでした。7月30日に氷見市に入り、この頃から選手たちの気持ちにも迷いがなくなったように感じられました。8月1日より競技が開始され、1回戦は不戦勝、2回戦の相手は北村山高校に決まり、その時2年前のことが頭をよぎりました。初戦ということで心配していましたが、立ち上がり先取点を取られたもののディフェンスを踏ん張り、勝利。3回戦は古豪の栃木女子高校でした。この試合もディフェンスからの速攻がうまく噛み合い、勝利を得ることができました。

準々決勝は選抜でも対戦した浦添高校でした。個々の能力が高く多彩なコンビプレーを駆使し、攻撃力が自慢のチームのため苦戦が予想されました。途中、引き離せるチャンスが幾度かありましたが、その都度キーパーの好守などで詰め寄られながらも1点差で初のベスト4入りを果たすことができました。準決勝は名門である昭和学院高校でした。試合運びの巧さや粘り強い隙のないチームであるため、走られることだけはされないように心がけ、試合に臨んだ結果、決勝にコマを進めることができました。

決勝戦の相手は福井商業高校で、ディフェンス・速攻・セットとどれをとっても申し分のない好チームでした。ミーティングでは、一人一人の役割を再認識させるとともに、この1年間を振り返らせました。決勝当日、思いのほか選手たちはリラックスした様子で会場入りしました。大歓声の中、ゲームがはじまりました。前半8－5で折り返し、後半キーパーを含めディフェンスの好調さがそのまま攻撃にも活かされ、結果18－7で初の全国制覇を達成することができました。

今回の優勝に至るまで、私と洛北高校ハンドボール部を支えて下さった多くの諸先輩方、京都府ハンドボール関係者、学校関係の方々に書面をおかりし感謝するとともにお礼を申し上げ、あわせて今後ともご指導、ご鞭撻をお願いいたしたく思います。

また氷見市では地元の温かいご声援、ご援助を受け、特にチーム係の江添さんや、民宿マリンタッチの方々には私以上に選手のことを気遣って頂き、係を越えてお世話をして頂いたことは今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に今回の〝日本一〟という栄光は、今まで悔し涙を流していった先輩たちの努力の上にあるということを選手ともども忘れてはならないと思います。またそのような選手たちにめぐり逢えたことに感謝したいと思います。氷見市は私にとって一生涯忘れることのない地となりました。ありがとうございました。

全日本男子チームが
公開練習

氷見インターハイ会場にて

広報・企画
木野　実

アジア大会を控え、日夜猛練習の蒲生全日本男子チーム19名が7月31日、第45回のインターハイ会場、富山県氷見市氷見高校グランドにて公開練習を行った。

インターハイの開会式前に行われたもので、全国から集まった高校生の前で、日頃行っているトレーニングの一部を披露したが、スタンドを埋めつくした大観衆から選手がシュートするごとに「すごい!」「ボールが速い!」の声があがり、一挙一投足にくいいる様にプレーをみつめていた。

蒲生監督の軽妙な語り口で選手の紹介から一つ一つのプレーの狙い、「今のプレーはいいですネ」「あんなミスしていたんでは」等と細かく、分かりやすい解説が行われた。

日頃、体育館の中での練習が中心の全日本チームであったが、しっかりした足腰で、グランドでもスピードを落とさず、随所にさすがと思われるプレーをみせてくれた。

ゴールキーパーの練習にも注目が集まり、足だけでボールを止めたり、三人のプレーヤーの中から一人のシューターをみつけての、大変集中力のいるプレーで果敢にキーピングするプレーを見て高校生をうならせた。

攻防戦では三対三の基本的な攻め方、守り方なども観衆に分かりやすく説明されて行われたため、好評であった。

練習の締めくくりに、全日本チームで紅白に分かれてゲームが行われたが、全日本選手達のスピードと激しいダイナミックなプレーの連続が随所に展開され、暑さも忘れ、ハンドボールの醍醐味を充分味わった。

明日からの大会、また練習に向けて大いに刺激と意欲につながったものと思う。

インターハイ参加者はじめ、全国の高校生の中から将来多くの全日本選手が輩出し、育っていってほしいものである。

最後に蒲生監督、橋本主将、並びに地元藤井孝志（高岡高陵高校出身）に地元高校生より激励の花束が贈られた。

そして蒲生監督より御礼とアジア大会に向けて、メダル獲得の強い決意が述べられ、選手たちも観衆の多くの高校生たちの期待に応えるべく、近づくアジア大会の健闘を誓っていた。

暑い中、また開会式のあわただしい時間を全日本チームのために企画、設営していただきました高体連並びに地元大会関係者各位に誌面をお借りしまして、心より厚く御礼申し上げます。

第14回全国クラブ選手権大会

男子は大同、女子は小松が優勝

福島県ハンドボール協会理事長　加藤　岳郎

本県でも第50回国民体育大会リハーサル大会として、先催県同様、全日本教職員大会を開催すべく準備をしていましたが、平成5年6月にクラブ選手権大会もリハーサル大会として開催できないものかとの話があり、本県ハンドボール協会の宗形会長に相談する。

昨年までのクラブ選手権大会が、ほとんど開催県協会によって細々と運営されていた実態をお聞きし、それならばクラブ選手権大会に参加する選手諸君にも国体の雰囲気に近いリハーサル大会を経験してもらってはと国体開催町の一つである本宮町に検討をお願いする。回答は、県協会がその方向で考えているなら協力したいとのことであった。

平成5年12月20日の（財）日本ハンドボール協会理事会にて検討いただき、平成6年2月24日（財）日本ハンドボール協会よりリハーサル大会としての承諾書を受領する。

しかし、教職員大会の女子の部開催で準備を進めていた本宮町実行委員会の方々には準備期間もほとんどない状況のもと突然の変更をお願いし、大変なご苦労をおかけしながら大会が開催できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

私たち県協会関係者はクラブ選手権をリハーサル大会とはしたが、代表者会議や開会式などにチームが出席してくれるのか、夏休み期間のかき入れ時に温泉旅館にキャンセルなどで迷惑をかけることはないかなど心配したが、老婆心で終ったことにほっとしています。

ただ、クラブ選手権ならではのお子さん連れの選手が3人おり、数人の子供さんが同宿したようです。旅館でも好意的な対応で何のトラブルもなかったとのことでした。

ところで、本大会は参加チーム数男子24（参加人数355）、女子16（参加人数201）の計40チーム（参加人数556）。競技方法は例年とは異なりトーナメント法で実施、昨年度の実績で男女共に上位4チームをシードした。

男子の試合結果は準々決勝で第3シードの2チーム、氷見クラブがホンダクラブに、小松クラブがふくしまクラブに敗退をした。準決勝二試合は対照的なゲーム展開となりパームヒルズクラブ対ホンダクラブ戦はパームヒルズの堅いディフェンスからのスピードある攻撃で一方的なゲーム展開となりヤングパワーの勝ち。ふくしまクラブ対大同クラブ戦は前半、老かいなプレーに翻弄され、ふくしまクラブが4点差をつけられ前半を終了。後半粘り、追い上げるも3点差で敗退、オールドパワーの勝利。

決勝戦、試合開始10分間は1点を争う好ゲームを展開するも、その後2分間で大同クラブが3点リードし、そのまま前半終了。後半も大同クラブが開始早々3連続得点し、ほぼ勝敗を決めた。

女子の結果は第3シードのオレンジクラブが小松クラブに1回戦で敗退。準々決勝で第2シードのDAIWA CLUBが日体OGクラブに敗退する番狂わせがあった。

準決勝戦は第1シードの香川銀行ハンドボールクラブがノーシードの小松クラブと対戦。香川の速い攻めと小松の巧みなパスワークの戦いとなったが、7MTのミスなどからリズムをつかみ切れずに12－11で昨年優勝の香川銀行が敗退。名古屋クラブ対日体OGクラブ戦は前半こそ3点差まで開いた時があったが、後半は1点差で追いつ追われつの好ゲームを展開。残り2秒での名古屋クラブの7MTが入り勝負が決まる。決勝戦は前半互角の9－9。後半も13分近くまで1点差で名古屋クラブも追いすがるが、自チームのミスや相手チームの2分間の退場も生かせず3点差の15－12で小松クラブに敗退した。

第50回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会
兼第37回全日本教職員ハンドボール選手権大会

男子はまたも京都ー香川の決戦!!

全日本教職員連盟理事長
遠藤　健次

「友よ、ほんとうの空にとべ」ふくしま国体のスローガンのもと、8月9日から13日まで、福島県石川町総合運動公園多目的広場、水晶の町にふさわしい六角形の体育館において開催された。

男子は昨年度の決勝戦の両チームが再び戦ったものの、女子は前年上位4チームがすべて入れ替わる波乱含みの戦国時代となった。前年4位の群馬教員クラブが福井チームの早い動きに不覚を取り、第2戦においては7年連続優勝の京都が愛知教員WINSの林、疋田を軸に走り回り、左右へのゆさぶり、正面よりのスクリーンプレー、早いつぶしのディフェンスによって楠本、矢野を中心としたベテランと若手の上手な組み合わせに、技巧派の代表とも言われていたのに敗退とは残念である。愛知は対京都戦が決勝進出の大きな要因となったと考えられる。一方の神奈川は安定感のあるGK安室、FPの児玉、小沢を中心に、どこからでも攻撃でき、足を充分に使った若さあふれるプレー。なおフットワークも良く相手チームを正面でよく止め、FPとGKのコンビは最高。持久力と若さで前年優勝の埼玉白子鳩を2回戦で走り勝ちといったところである。更に決勝でも対愛知に息切れすることなく走り抜けたのが輝かしい初優勝につながったと考えられる。

地元福島クラブは、新進そのものの若い選手を小型の須田が良くまとめ、要所要所に好プレー、早い走りを見せてくれた。今後が非常に期待されるチームである。

栃の葉は勤務の関係もあり少人数で参加。ベテランらしい技術とチームワーク、小島の好リードで準決勝に進出できたが、今後はメンバーの補強が課題であるように思われる。

女子の部においては、京都の再起を願うのは私一人ではあるまい。他に福井、沖縄、岩手、埼玉の好プレー、活躍が記憶に残った。

男子は結果からみれば4年連続同一カードとなったが、各戦いに打倒香川、京都との意気込みが感じられた。ことに30代の諸君と若手が歯車をうまくかみ合わせ、テクニック、足を使ったプレーが続出し、いやが上にも大会を盛り上げてくれた。このことは本大会を単にゲームの場だけではなく、日頃の研鑽、そして生徒への指導の結果を発表する機会と捉えている指導者の前向きな姿であり、勝負を越えた態度であったと評価したい。

ベスト4以外では、埼玉、愛媛、岩手、神奈川、沖縄、三重等の活躍が印象に残り、来年に期待がもてる。

優勝の香川チームはGK高木の好判断と田中、後藤、河合、加藤等の走・跳・技の三拍子揃ったプレイヤーを加えて多彩なコンビプレーは見事。サイド、ポストプレーに一工夫加えれば、連続記録を伸ばすことも大いに可能であろう。

3年連続香川に破れた京都は、山下の攻守と楠本、佐久間、片山、清水が特色あるプレーを各所に展開し、足を使った動き、コンビプレーで早い時期に王座に返り咲いてほしいチームといえる。

3位の福島は全く若い選手が力一杯、フルに攻撃、速攻、ディフェンスをぜひ完成させ、来年の本番での活躍を願う。栃の葉は武井、山下を中心として「よくぞここまで」の感を持つが、走力、コンビで、この位置に定着してほしい。

男子

1回戦	得点	2回戦	準々決勝	準決勝	決勝
香川教員	33	43	43	27	36
沖縄教員	20				
長野教員	38	19			
宮城教員	18				
岐阜教員	23	15	22		
宮崎教員	20				
愛知教員B	19	26			
埼玉教員クラブ	33				
富山教員	20	23	17	24	
三重教員	25				
わかくさクラブ	23	25			
愛媛教員	25				
滋賀教員	16	29	28		
福島クラブ	37				
北海道教員	16	14			
静岡県教員団	24				
愛知教員A	18	16	14	8	23
山口教員	16				
神奈川教員団	27	19			
広島県教員	16				
千葉教員	19	26	18		
熊本教員クラブ	26				
スワロー兵庫	21	27			
栃の葉クラブ	28				
岩手教員クラブ	27	30	12	28	
大阪教員クラブ	24				
岡山教員	19	21			
群馬教員	25				
石川県教員団	18	17	24		
埼玉ライオンズ	32				
高知教員	17	27			
京都教員クラブ	27				

優勝　香川教員

3位決定戦　福島クラブ 35 − 18 栃の葉クラブ

女子

1回戦	得点	2回戦	準決勝	決勝
京都教員	21	13	20	16
三重教員	12			
山口クラブ	9	19		
愛知教員	16			
千葉クラブ	15	24	13	
福島教員	18			
福井教員	20	13		
群馬教員	11			
オール福岡	19	12	14	25
愛媛教員	15			
栃の葉教員	21	16		
大阪教員	15			
レキオクラブ	12	23	21	
神奈川教員	27			
岩手教員	14	12		
埼玉教員	20			

優勝　神奈川教員

3位決定戦　福島教員 20 − 13 栃の葉教員

		(1日)	(2日)	(3日)	(4日)	(5日)
男子	警告	2.8	3.4	3.1	3.0	4.0
	退場	1.7	2.4	1.0	2.0	2.5
女子	警告	2.9	2.5	2.5	3.0	−
	退場	1.7	3.8	3.0	1.0	−

さて今回の大会で、警告①、退場②の数を並べると上の様になる。

全体をみると男子より女子に多く、後半にいくほど、増加してきた。理由はいろいろあげられるであろうが、今後の課題にしたい。

本大会は連日酷暑の中で、応援、そして心くばりをされた地元石川町当局始め関係諸氏に感謝申し上げ、来年の国体の成功を心から念じる次第である。

■大会成績

	男子	女子
優勝	香川教員	神奈川教員 (Gabbiano)
2位	京都教員	愛知教員 (WINS)
3位	福島教員	福島教職員
4位	栃の葉クラブ	栃の葉クラブ

■優秀選手

▼男子

高木優明、田中　潤、後藤　聡（以上、香川）、楠本繁生、清水　章（以上、京都）、矢作英樹（福島）、武井一浩（栃木）

▼女子

安室茂美、児玉　薫、小沢摩里子（以上、神奈川）、林　弘江、疋田智津子（以上、愛知）、須田悦江（福島）、小島公子（栃木）

第23回全国中学校大会を終えて

㈶全国中学校体育連盟ハンドボール競技北海道ブロック長
清水　勝

平成6年度、全国中学校選抜体育大会は広大な北海道を舞台に開催され、ハンドボール競技は8月19日から22日の4日間、札幌の中島体育センター別館と、豊平区体育館の二会場で、全国9ブロックと開催地代表の男女各20チーム、全38試合の熱戦が繰り広げられました。

「汗と涙の青春を　北の都　札幌で!!」のスローガンのもと、涼しい北海道を期待して来道した選手及び関係者をちょっぴり裏切った暑さの中、大きな事故もなく無事終了いたしました。

大会運営は、審判以外すべて中学校の教員と中学生の補助員で構成したのですが、チーム数10校に満たない札幌の現状では、ハンドボールのルールはもちろん、見るのもはじめてという先生、生徒も少なくなく、競技特性を理解してもらったり、仕事手順を確認するのに、北海道ハンドボール協会並びに札幌ハンドボール協会の方々に助言いただきながら、何とか漕ぎ着けたものでした。

競技の方では、昨年の奈良大会よりチーム増（16から20チームへ）になりましたが、今年は昨年の反省を踏まえ、試合順を考慮したり、1回戦でブロック第三代表同士が当たらないよう抽選基準を一部追加したりしました。しかし、新たに「同じ条件下で試合させたい（1日2試合のチームと、1試合のチームができる）」という声や、一昨年にも問題になった「男女アベック出場しているチームへの試合時間の配慮をしてほしい」との声も再び上り、次年度の大会へ向けての懸案事項も残しました。

試合は、3月のJOCカップでの成績が優勝を占う大きな鍵となり、男子は富山県の西條中、女子は熊本の佐伊津中が有力視されていましたが…。

★　★　★

男子は力が均衡し、接戦が多く見ごたえのある試合が多かったと思います。特に準決勝2試合は、目の離せない印象深いものでした。

第一試合、JOCカップ優勝の主力メンバーを擁する富山県西條中に対して、地元北海道の期待を背に一戦一戦波に乗ってきている凌雲中との戦いは、西條中の多彩な攻撃を、凌雲中GK、JOCカップ・オリンピック有望選手町出君がうまくキーピングし、味方の攻撃陣につなげ、1点差を争うゲームとなりました。しかし、残り1分に西條中・山君の2点差とする20点目が決まり、辛くも西條中が逃げ切りました。

また、第二試合の関東勢同士、群馬県富岡東中と東京都国立第二中との対戦も最後まで2点以内でのシーソーゲームとなり、観客をくぎ付けにしました。そして試合終了1秒前、同点で延長戦かと思われた瞬間、富岡東中・山下君がスタンディングで放ったシュートがブラインドシュートとなり、国立第二中にとっては無情なゴールイン。劇的な幕切れとなりました。

これですっかり波に乗った富岡東中セブン、続く決勝は、中沢君

優秀選手賞

◇男子

県	学校	氏名
北海道	函館市立凌雲中学校	町出　智也
富山県	氷見市立西條中学校	北川　博隆
〃	〃	茨木　毅昌
群馬県	富岡市立東中学校	中沢　太
〃	〃	市川　晋尋
東京都	国立市立第二中学校	北島　栄
沖縄県	浦添市立神森中学校	与世田拓朗

◇女子

県	学校	氏名
東京都	江東区立大島中学校	山元佐和子
〃	〃	安部ゆう子
熊本県	宇土市立住吉中学校	松本　幸子
〃	本渡市立佐伊津中学校	前田　美穂
三重県	四日市市立朝明中学校	山中ひろみ
富山県	氷見市立南部中学校	早船　愛子
〃	小杉町立小杉中学校	釣　奈美子

の8点をあげる活躍もあり、後半初めの連続得点で強豪・西條中を突き放し、嬉しい初優勝を飾りました。

★　★　★

女子では、ベスト4に佐伊津中と住吉中の二校が残り、熊本勢強しを印象付けましたが、それに立ちはだかったのが東京都大島中でありました。準決勝では、佐伊津中・前田さん（JOCカップ・オリンピック有望選手）をうまく封じ、後半10分過ぎからの4点連取で抜け出し、佐伊津の反撃を何とかしのぎ決勝へ。

前半5点の貯金を何とか守り切り、三重県朝明中を破った熊本県住吉中との決勝となりました。

決勝では、前半終了間際に2点をあげ3点差として前半を終了した大島中が、後半も全員ハンドの持ち味を最後まで持続し、初優勝を飾りました。

★　★　★

また今年は、北海道ハンドボール協会の賛同を得て、優秀選手賞男女各7名を表彰することができました。選手たちにとって大きな励みとなり、今後の一つの目標ともなるでしょう。次年度以降も是非続けていってほしいと思います。

最後になりましたが、本大会開催のためご尽力いただきました関係諸氏、関係機関等に厚くお礼申し上げます。

第23回全国中学校ハンドボール大会結果

女子の部

対戦	スコア
佐伊津（熊本）－吉川中央（埼玉）	17－12
本山（兵庫）－佐伊津	11－17
東月寒（札幌）－香川第1（香川）	10－23
佐伊津－香川第1	21－12
住吉（山口）－大島（東京）	11－13
矢田（愛知）－鶴崎（大分）	17－15
矢田－小杉（富山）	15－23
大島－小杉	17－15
佐伊津－大島	16－18
南八下（大阪）－住吉（熊本）	12－13
二瀬（福島）－住吉	11－18
清水第2（静岡）－凌雲（北海道）	20－9
住吉－清水第2	21－15
朝明（三重）－総社西（岡山）	23－3
豊中第13（大阪）－南部（富山）	2－13
南部－岩井（茨城）	18－22
朝明－岩井	28－12
住吉－朝明	18－13
決勝　大島－住吉	15－11

優勝　大島中学校（東京）
準優勝　宇土市立住吉中学校
3位　本渡市立佐伊津中学校
3位　四日市市立朝明中学校

男子の部

対戦	スコア
天神山（愛知）－神森（沖縄）	15－16
綾南（香川）－神森	19－17
丸山（兵庫）－西條（富山）	21－29
綾南－西條	14－20
凌雲（北海道）－美川（山口）	19－12
朝明（三重）－大島（東京）	17－24
大島－南八下（大阪）	22－18
凌雲－大島	16－13
西條－凌雲	21－18
富岡東（群馬）－御幸（石川）	18－10
北川（宮崎）－富岡東	11－13
滝ノ水（愛知）－修道（広島）	18－12
富岡東－滝ノ水	23－14
厨川（岩手）－南が丘（札幌）	19－20
横尾（兵庫）－浦西（沖縄）	18－17
横尾－国立二（東京）	18－26
南が丘－国立二	16－26
富岡東－国立二	16－15
決勝　西條－富岡東	15－23

優勝　富岡市立東中学校（群馬）
準優勝　氷見市立西條中学校
3位　函館市立凌雲中学校
3位　国立市立第二中学校

石川高専が念願の初優勝

第21回全国高等専門学校選手権大会

古屋　正俊

第21回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、八戸高専を主管校として、8月5日の開会式に次いで、6日から7日まで十和田市総合体育センターと六戸町総合体育館で開催された。

大会には、全国8地区の予選を勝ち抜いた代表校12チームが参加した。大会初日に3チームずつの4ブロックに分かれた予選リーグを行い、各ブロックとも決勝トーナメント進出をかけて熱戦を繰り広げた。

今年の夏は、東北の地、青森においても記録的な猛暑で、コンディション調整の難しさに各チームとも悩まされたが、決勝トーナメントに駒を進めたのは、3連覇を目指す明石高専、初優勝をかけた石川高専、速攻が持ち味の豊田高専、初のベスト4進出の奈良高専であった。

準決勝、石川高専と奈良高専の試合は、前半スタートより、石川高専が多賀のサイド、助田のロング等で着実に得点を重ね、一方的な展開となる。石川高専のスピードに押され、リードを許した奈良高専も、吉田のロングで対抗するが、点差は縮まらず、石川高専が余裕をもって31−14と快勝した。

一方の準決勝、明石高専と豊田高専の試合は、走力のある豊田高専が速攻、ポストでリズムをつかみ、試合開始より優位に立つ。明石高専もセットプレーで追いすがるが、前半6−8と豊田高専にリードを許して終了。後半になると、豊田高専の攻めが単調になり、逆に明石高専はフォーメーションで反撃し、後半6分過ぎからは完全に明石高専ペースで試合を進め、16−12で逆転勝ちした。

決勝は、今回で3年連続の同一カードの対決となった。決勝戦まで余裕をもって勝ち上がってきた石川高専、接戦を勝ち抜いた明石高専、共に攻守ともに安定感のあるチームである。決勝で2年連続して、もう一歩のところで苦汁をなめてきた石川高専が、難敵、まさに『目の上のタンコブ』だった明石高専を前にどのような戦いを挑むかが注目された。

先取点を取ったのは石川高専。塩谷がミドルを決め先行したが、すかさず明石高専もセットで対抗し、予断を許さない試合展開となる。しかし、石川高専はキーパー出口の再三の好守でリズムをつかみ、2点リードで前半を終了。後半は個人技の石川高専、セットの明石高専と、ともに持ち味を発揮したシーソーゲームとなる。両キーパーの好プレーで、息詰まる攻防を展開したが、前半の2点差を守り切った石川高専が19−17で念願の初優勝を飾った。

なお、今大会より優秀選手賞が新設され、以下の7名の選手が表彰された。GK・出口健一（石川高専）、井原陽生（明石高専）、CP・助田貢（石川高専）、塩谷直之（石川高専）、江草尚之（明石高専）、滝純也（豊田高専）、吉田哲也（奈良高専）

決勝トーナメント

優勝：石川高専（決勝 19−17）

準決勝	スコア
石川高専 − 奈良高専	31−14
豊田高専 − 明石高専	12−16

■予選リーグ順位

A　①石川高専②岐阜高専③八戸高専
B　①奈良高専②一関高専③呉高専
C　①豊田高専②東京高専③仙台電波高専
D　①明石高専②八代高専③徳島高専

国際親善試合報告

ブダペスト・スパルタカス女子チームとの対戦

竹野 泰昭

■6年ぶり2度目の来日

7月3日から30日までブダペスト・スパルタカス・スポーツクラブの女子チームが来日した。1988年7月に次いで6年ぶり2度目の来日である。

スパルタカスとの交流が始まったのは、大崎電気女子チームが1988年にハンガリーへ遠征したときからである。スパルタカス会長のパザル・サンドール氏が大崎電気との交流を希望し、大崎電気が1988年4月にスウェーデン・ハンガリー・チェコスロバキア（当時）に遠征した。大崎電気男子チームがハンガリーへ2度遠征したときも、パサル会長が物心両面で協力してくれた。

■ヨーロッパ・カップ優勝の名門

スパルタカスは1952年に誕生。1975年に国内リーグで2部に転落したが、そのほかは常に1部名門チームとして活躍してきた。1960年から65年まで6年連続して国内リーグ1部で優勝、1967年にも7回目の優勝を果たして、名実ともハンガリーの女王の座を占めた。

1965年の世界選手権大会にはスパルタカスから5人を送り込んでチャンピオンとなり、ヨーロッパに「スパルタカスあり」とアピールするまでになった。

1981年のヨーロッパ・カップ選手権大会で優勝、翌1982年には惜しくも2位となった。1988年のヨーロッパ・クラブ選手権大会で決勝に進出したが、タイトルを取ることが出来なかった。

最近の国内リーグの戦績は1984年8位、86年9位、92年6位、93年6位、94年6位（5月現在）と15年前に比べると、やや戦力がダウンというところである。優秀な選手がドイツ・スイスなど周辺諸国から引き抜かれているのも一因である。今年はウクライナ国籍のマンコワ・スウェトラナ選手を補強し、得点力は倍増したという。国際試合209回出場のベテランで、31才。マンコワの速攻、シュートは定評があり、エンビル監督は「マンコワ選手は日本でも大活躍するだろう」と訪日前にブダペストで話していた。

マンコワ選手のビザ申請に時間がかかり、スパルタカスを迎える私たちはやきもきしていたが、大崎電気の渡邊社長の取り計らいで7月19日、やっと外務省からビザを交付され、選手団と一緒に来日出来たことは喜ばしいことである。

今回のスパルタカスは当初、ウクライナのマンコワのほかにロシアのメレンティエヴァ、アレンチナのスカウト組を連れて来る予定だったが、2人ともビザが交付されず、パザル会長から「マンコワは、どうしても日本に連れて行きたい。何とかしてほしい」とFAXで要請してきた。日本サイドはこれを受け入れ、関係書類を取り揃えて外務省と交渉を重ねた。2人が来日しないとスパルタカスの戦力は半減するようだ。この2人以外に国際試合58回のラースロ・クリスチーナ、30回のウイクラシ・ズザのベテランがいる。ズザは1988年に来日しており、その華麗なプレーは日本のハンドボールファンを魅了した。

■全日本チームは広島のアジア大会の前哨戦

来日前に、パザル監督は電話で「全日本チームに勝つことが第一である」と言っていた。スパルタカスは自信を持って試合に臨んだが、結果は緒戦で大崎電気に敗れ、長期合宿の成果を発揮した全日本にも2敗した。全日本との第一戦は7月26日に栃木市総合体育館で行われたが、前半で全日本が15－6と大量リードを奪い、26－15で終了。翌日行われた第二戦も全日本が前半で13－6、後半8－7の21－13で連破し、ブダペストは結局2勝3敗に終わった。

ちなみにスパルタカスの日本チームとの通算成績は9勝4敗となった。

●試合結果

【7月24日】福島県本宮町総合体育館

大崎電気 21（12－8 / 9－7）15 ブダペスト

ブダペスト 19（13－2 / 6－5）7 ムネカタ

【7月26日】栃木市総合体育館

全日本 26（15－6 / 11－9）15 ブダペスト

【7月27日】栃木市総合体育館

全日本 21（13－6 / 8－7）13 ブダペスト

【7月28日】

ブダペスト 26（13－10 / 13－13）23 筑波大学

連載⑪

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

練習ゲームに結び付かない

練習がゲームに結び付かないと言うことがよく言われる。ここで言うゲームとは公式試合の事であり、練習とはゲームを含む練習全ての事である。練習は何のために行うかと言えば、「ゲームを上手にやるため（試合に勝つため）に行うものである」と単純に言う事が出来る。体力のトレーニング、グループ（コンビ）、チーム戦術、ゲームも全て練習は公式ゲームでいい成果を挙げるために行うものである。その意味では練習がゲームに結び付かないはずはないのであるが、現実はどうもそうではないのである。今回はこの事について考えてみたい。

もっとゲームをやったほうが

私の大学は約150人のハンドボール部員がいる。部員のほとんどは同好会や医学の学生で、学生連盟に所属する部員は男女で40人位である。その同好会は週に3～4回練習があるので、練習を良く見る機会がある。その練習を見て、思う第一の事が「もっとゲームやチーム戦術（6－6）をやればいいのにな」と言う事である。

見る練習のほとんどはシュートや基本的な攻防練習である。シュート練習はずらっと並んで延々としてやっている。練習内容はどうも試合とは程遠い。日本式指導法の長所欠点のうち、典型的な欠点をみる思いである。

ゲームをやれば

「ゲームは教師である」という諺が中国にある。確かにゲームは色々な事を教えてくれる。ハンドボールとはゲームそのものであり、基本の練習がハンドボールではない。基本的な練習をきちっとさせるには、ゲームはどんなものがよいか体験して知らなければならない。

ゲームをやれば、何がゲームに必要かを教えてくれる。意義のない練習をするのだったら毎日ゲームをしたほうが良いくらいである。特に初歩的レベルのチームには、ゲームを行いその面白さを伝えることによって、モチベーションを高める必要がある。

人数が少なければ、他チームに練習試合を積極的に申し込んで交流するなり、人数を少なくしたゲームをすればよい。もし人数が少なくてもゲームに含まれる局面は全て経験できる。ゲームは馬の鼻先にぶら下げられた人参ではなく、ハンドボールの目的である。常々ゲームをして基本練習の意味を知り、積極的かつ熱のある基本練習をしてもらいたい。

やりっ放し

何事もそうであるが、何かをやればそこには目的がある。やりながら常々評価し、うまく行ってなければ課題を見つけて処方する。そういうことを繰り返して目的のものに近づけていく。練習も同じである。このことを図1に示してみた。

しかし、スポーツの練習では練習そのものに満足し、課題を先送りしてしまうということは良くあることである。ゲームと練習とが結び付かない最大の原因は、練習のやりっ放し、ゲームのやりっ放しではないかと思われる。やりっ放しの中から進歩は生まれにくいことを知っておかなければならない。

やりっ放しの原因

やりっ放しの原因は、練習やゲームを正しく評価し、出てきた課題を指摘し、その処方を出してくれる人がいない場合が最も多いのではないでしょうか。今、このチームはどこをつければ上手くなるのか、あるいはこの選手のどこをつつけば上手くなるのか。その評価と処方が大事である。指導者の役割の大きな部分がそこにあるが、それがなければまず「やりっ放し」にならざるを得ない。指導者のいないチームはそうなりがちである。

それでは、指導者が専門家でなかったり、いなかったりしたらどうするのか。高校段階までは、選手に指導者の代わりをさせるのは無理である。ハンドボールが良くわかっているＯＢにお願いして来てもらったり、指導者のいるチームに連れて行って、練習を見てもらったり、ゲームの評価をしてもらったりするとよい。それより、顧問になられた先生が、一念発起してハンドボールを勉強していただき、その面白さを知って生徒とともにハンドボールの道に進んでいただくのが最も良い。ハンドボールに素人だった何人もの先生方が日本一の座に着かれた事実は励みになるはずである。ハンドボー

ル未経験者の発掘や支援は、我々ハンドボール経験者の役割の一つである。

評価、処方するには

評価、処方をするには、ハンドボールとハンドボールを取り巻くスポーツの諸科学を良く知っていなければならない。そのことを知らないで、評価するのは間違った処方をする原因である。医者が間違った処方をして患者を死なせたら、それは社会的な大問題になる。スポーツの診断と処方は、相手を死なすことにはならないが、選手にむだな努力を強いたり、せっかく能力ある選手の素質を積みかねない。

ハンドボール指導者の専門性、一言で言えば「評価（診断）、処方」が適切に出来る人である。極論すれば、1時間指導すれば1時間分チームや選手を上手く出来る指導者である。選手のやっていることと指導書等に書いてあるものと良く観察して見比べて欲しい。指導者にとって大切な観察能力が身についてくるはずである。また、ゲーム等をスコアーにとって分析集計すれば、自分の観察能力をもっとバックアップしてくれる。

ハンドボールもハンドボールを取り巻く世界も、時代とともにどんどん変わって行く。指導者が現場に接していれば、その中で、変わらない部分と変わっていく部分を指導者は敏感に感じ取れ、指導に生かしていけるはずである。

ゲーム
↓
評価、診断
↓
課題の把握
↓
処　方
↓
理　論
↓
体力 ⇔ 技術 ⇔ 戦術（1対1／グループ／チーム）
↓
ゲーム
↓
評価、診断
↓

パターン化練習

パターン化練習の意味は二つある。

一つは、毎日毎日同じメニューで練習をやるというもので、パターンの決まった練習である。練習というのは先ほども述べたように、ゲームを上手にやるために行うのであるから、ゲームで課題が見つかったり、課題が達成できたら練習方法は変わってくるはずである。

二つ目に、技術や戦術が相手に関係なくパターン化してしまうというものがある。技術やコンビなど、単なるパターンとして教えてもゲームは有効に作用しない。なぜその動きをするのか。あくまでもディフェンスとの関係の中で指導する。パターンの中でテクニックやコンビが使えるようになればディフェンスを入れて、どの段階でも「シュートを狙う」と「プレイを継続する」という原則に基づいた練習を導入しなければならない。ディフェンスが入れば、動きやテクニックのバリエーションが一つのパターンから付随して生まれて来るはずである。これは選手の戦術的要素であるが、ゲームではこれが大切な要因である。

対応動作として練習する

ボールゲームは対応動作より成り立っている。自分の技術が発揮されるときには、必ず相手がいる。従って技術の練習には必ず相手をつけて攻防し、お互いの技術・戦術を最高度に発揮して行う練習が必要である。新しい技術や戦術の導入段階においては、防御あるいは攻防の一方に比重をおいてパターン的な練習を行う場合があるが、最終的にはお互い対等の立場で練習するよう持っていかなければならない。

シュート　対　GK
シュート　対　ブロック
1：1突破対1：1阻止
2人攻撃　対　2人防御
チーム攻撃対チーム防御

と言う具合に。

どちらかが適当にやっている攻防練習は、ゲーム場面とは程遠く、実戦的意味を持たない。

スピード不足

ゲームで技術が通用するためには、

(1)技術の動作が理にかなっていること（テクニック）
(2)技術の使いこなしが良いこと（戦術）
(3)テクニックに体力的基盤があること（スピードやパワー）

が必要である。

練習を見ていると、ゲームでは到底通用しないスピードで練習している場合がある。練習時間が長いために、体力を温存しているためであろうか、初歩的な段階ならまだしも、その技術を習得している場合はよりハイテンポの中で技術を使わせ、ゲームで通用するスピードを習慣化させることが必要である。形が整ったらスピードを上げていくことが必要である。

だらだらした練習を何時間やっても、技術的には意味のないことである。

コートの外からのサイドシュート練習？

ゲームアップなどを見ていると、サイドシュートをするのにコートの外から何歩も走ってシュートしているチームをよく見かける。ゲームではコートの外からシュートすることはない。ルール違反のことをいくら練習しても無駄である。サイドでは2～3歩しか助走が取れず、最初の一歩がシュートの踏み込みを決めると言うのにである。普段の練習でもやっているのではと思われるが、これでは練習が試合に結び付かないのは当たり前である。

これは一つの例えであるが、日頃やっている練習をゲームとの関係で見てみると、必要のない練習や、もっと練習方法を改善すべきものが見つかるのではないだろうか。

1994年男子ナショナルチームの無酸素パワー維持能力

板井美浩、阿部徳之助（自治医科大）
竹内正雄（星薬科大）、西山逸成（防衛大）

世界のトップレベルであるといわれるヨーロッパ諸国の選手たちの形態がかなり大型[1]であることから、ハンドボール競技にとって身体の大きいことが競技を優勢にすすめる条件の一つであると言えよう。また、1988年ソウル五輪で韓国男女チームが快挙を成し遂げたのには、ヨーロッパ勢に対する形態的な劣勢を克服するために、オリンピック大会直前まで計画的な体力トレーニングにより基礎体力の向上に努めたことが一つの要因になっている[5]ことが報じられている。加えて、わが国でも競技力向上のための体力強化の必要性が叫ばれ、男女ナショナルチームとも重点強化に努めている。

しかしながら、ハンドボール競技は測定された体力（形態を含む）の優劣がそのまま競技成果に反映するとは言い難い。「特に球技種目では、技術や戦術等といった要因にその勝敗を左右される割合が高く、体力と競技力との直接的な関連性を見出すことは困難である」との見方をする指導者も多い。

では何故「強い体力」が必要なのか？

ここで、ハンドボール競技から戦術や精神力といった要素を取り除き、技術を構成する基本的な要素、すなわち走・跳・投という身体動作を個別に取り出した場合、プレーをよりスムーズに遂行するためには、これらの動作を正確にしかも早く行うことが必要となる。

この「巧みさ」は、スキル（skill）と呼ばれ「自分の持っている体力（エネルギー）を、合理的に競技成績に発揮させる能力」と説明されるものである。

したがって、体力が強ければ良いのではなく、フィジカルリソース（physical resource：身体資源）としての体力が大きいほど一つ一つのプレーに余裕ができ、さらに接触プレーでは形態的に大きい方が有利であることを考えた時、体力水準の高いことがハンドボール競技にとって重要となる。

さて、ではどんな体力を向上させることが、競技者にとって有利なのだろうか？

ハンドボール競技の1ゲームで選手が移動する総走行距離は、ゲームの展開や選手のポジションによって相違があるがおよそ3000～6000m[1][3]で、様々なプレーを行いつつ緩急差の激しい走運動が繰り返されている。

この中で攻防のプレーそのものに必要なのは、強度の高い無酸素的な動作によるものである。それらのプレーの合間に、比較的速度の低い走運動や歩行によって、身体は有酸素的にエネルギー源の回復をはかっている。

これらのことからハンドボール競技には無酸素的な大きなパワーと、有酸素的な持久力という供給が必要であることが示唆される。

そこで、単発の最大無酸素パワーと最大酸素摂取量の関係と、競技成績との関連を調べたところ、ゲームに勝つためには最大無酸素パワーの高い方が有利である[2]ことが明らかになった。

一方、ゲームにおいては高強度の運動が繰り返されるため、単発的なパワーよりも、無酸素的なパワーの維持能力というフィジカリソースを知ることの方がより現実的であると考えられる。

以上のことを踏まえ、日本ハンドボール選手の競技力向上に役立てることを目的として、男子の全日本選手を対象に無酸素パワーの維持能力測定を試みたので、若干の結果を添えて報告する。

図1．40秒パワーの経時的変化（watt）

測定は、固定式自転車を用い、最大努力で40秒間のペダリング運動を続けるもので、負荷（ペダルの重さ）は体重の7・5%であった。

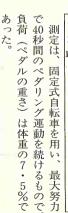
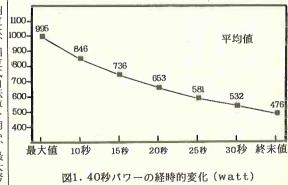



図1に40秒パワーの経時的変化を18名の平均で示した。パワーは、最大値が995±98wattであり、時間を追うにつれて漸減し、終末には476±54wattであった。終末値の維持率は、最大値に対しておよそ半分の48±4%であった。また体重1kg当りの終末のパワーは5・9±0・6wattであり、宮下ら[4]の評価法によると「やや優れている」に分類された。

図2には、同時に計測したペダリング速度の変化を示した。最大値が168±11rpmで、終末値が80±8rpmであり、その維持率はパワーと同様48±4%であった。

40秒パワー測定の最大値において、比較

となる資料が少ないため、客観的な評価は困難であるが、パワーが1000watt、ペダリング速度が180回／分（毎秒3回転）を越えるとかなり優れていると思われる。今回の測定では、18名中10名がこれに当てはまった。

パワーは、外界へ働きかける身体能力を表すものである。最大値が高くそれが低下せずに維持されることが望ましい。強度の高いプレーが連続しても疲労しにくく、攻撃時や接触が生じた時に有利になるものと推察される。

一方、ペダリング速度は、自身の体を移動させる速度の指標となるものである。形態的に小柄であったり体重の軽い選手は、特にこの能力に優れている必要があろうと思われる。

図2．ペダリング速度の経時的変化（回／分）

以上のことからハンドボール競技において勝利をおさめるための体力づくりとしては、ウェイトトレーニング等により筋量の増加を図り、さらに無酸素的なエネルギー代謝能力を高めるトレーニングを進めていく必要があろうと思われる。また、トレーニングをより効果的にするために、体力強化のみに重点を置くのではなく傷害予防のためのトレーニングを平行して行っていくのが望ましい。

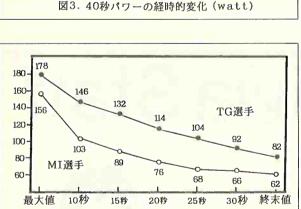
最後に、今回の測定で見られた典型的な2名の選手の結果を図3と図4に示す。TG選手は身長が181cm、体重が82kg。MI選手は身長192cm、体重が83kgであり、身長は異なるものの体重はほぼ同じため、ペダリング負荷は2選手とも6・2kpである。

（監修・西山逸成）

図3．40秒パワーの経時的変化（watt）

図4．ペダリング速度の経時的変化（回／分）

【文献】
(1)阿部徳之助他：87男子ジャパンカップにおける日本・ユーゴ・西ドイツの体格・形態・体力の比較について。ハンドボール、No.272、10－12、1988。
(2)板井美浩他：ハンドボール競技における体力トレーニングの効果と試合成績について。日本体育学会第42回大会号、p351、1991。
(3)田中守他：ハンドボールゲーム中の種々の動きの質・量と心拍応答について。日本体育学会第43号大会号、p756、1992。
(4)宮下充正編著：一般人・スポーツ選手のための体力診断システム。ソニー企業、p80、1988。
(5)スポーツと国際交流、世界スポーツ・コーチサミットⅢ報告書、1989。

審判委員会からのお願い

ビデオテープを貸して下さい

夏の各種大会も終わり、いろいろな感動、ドラマが生れたことと思います。審判委員会では審判員の研修のために、実際の試合で起こったあんなプレイ、こんなプレイをビデオテープで募集いたします。あの判定はおかしいのではないか、このように判定するべきではないのか、あの処置はわからない、レフェリーの判定、行動だけではなく、プレイヤーもっとルールを知るべきである、等々。みなさんのチームで撮った貴重なビデオテープを貸して下さい。

テープ提供に対して薄謝をさしあげます。テープはお返しします。きれいな画質を確保するためにも、できる限りマスターテープでお願いします。

テープの種類はVHS、S－VHS、8㎜、Hi－8は問いません。

簡単な状況説明をお書き下さい。

▼送付先

東京都渋谷区神南1－1－1

(財)日本ハンドボール協会

ビデオ係

フリースロー

「管理の行き過ぎ」

企画・広報委員 早川 文司

猛暑、炎暑、酷暑…今年の夏は列島各地で水銀柱の上昇記録を塗り変えた。気象台の職員ですら「台風来い、来い」と、ひそかに心の中で叫んでいたというから、異常ぶりが知れる。みなさんの体調はいかがですか。「ぼつぼつ疲れが出て」と嘆きの声も聞こえそうな季節になってきた。

でも、氷見でのインターハイは、暑さを忘れさせる熱い戦いを繰り広げた。若者は元気がよくていい。見ていてさわやかだ。

そこで感じたことがある。今月はそれに触れてみたい。暑気払いなんてことは毛頭ないので念のため。

若い芽をどう伸ばすか―真面目な話である。指導者には二通りある。欠点矯正にエネルギーを燃やす人と、特徴を伸ばすことに賭ける人。どちらかというと、日本人は前者が多い気がする。だから―ではないかも知れないが、日本の選手は成長が途中で止まるケースがある。

話は横道にそれるが、日本と外国の公共施設を思い浮かべてほしい。日本はいたるところに「禁止」の貼り紙があったり、立て札が立ったりしている。いわゆる管理が厳しいのだ。ところが外国は、どこへ行ってもめったにお目にかかることはない。個々に道徳が身についており、他人のものでも大事にする習慣が幼い時から植えつけられているから「禁止」は必要ないのだ。

これと同じように、選手育成にしても「あれはいけない」「ここはこうして」など、押しつけがましいことばかりいっても始まらないように思う。いいところを伸ばし、自主的にトレーニングを積ませることも大切だろう。すくすく育っているせっかくの若い芽をつみ取ってはあまりにも悲しい。

「禁止」一辺倒でなく、互いによき信頼関係を築き、伸び伸びとした心・技・体づくりを目指してもらいたい。管理の行き過ぎは現代にはマッチしない。

各地の大会結果

全国大会

第7回全国小学生大会

（7月30日～8月1日／京都府田辺町）

◎男子

▼予選リーグ

▽Aブロック

当山小学校（沖縄）18―15 守谷クラブ（茨城）
当　山　小 22―8 瀬戸オールスターズJr（岡山）
守谷クラブ 20―1 瀬戸オールスターズJr

▽Bブロック

長崎選抜（長崎）15―6 大浜キッズ（大阪）
長崎選抜 9―9 埴生小学校（長野）
埴生小学校 13―7 大浜キッズ

▽Cブロック

安堵の里ク（奈良）24―4 本宮スポ少（福島）
安堵の里ク 8―8 三角東少年（熊本）
三角東少年 20―3 本宮スポ少

▽Dブロック

窪スポ少（富山）24―4 明石ハンド（兵庫）
窪スポ少 21―7 笹川ハンド（三重）
笹川ハンド 25―5 明石ハンド

▽Eブロック

田辺東小学校（京都）10―10 日岡ハンド（大分）
田辺東小学校 20―10 甲田ハンド（広島）
日岡ハンド 19―12 甲田ハンド

▽Fブロック

長万部小学校（北海道）20―2 和歌山市教室（和歌山）
長万部小学校 23―6 香川町オリーブ（香川）
和歌山市教室 9―6 香川町オリーブ

▽Gブロック

田辺町選抜（京都）20―5 小林小スポ少（宮崎）
田辺町選抜 22―7 愛知県ハンド（愛知）
愛知県ハンド 12―10 小林小スポ少

▽Hブロック

塩山スポ少（山梨）14―7 足羽小学校（福井）

▼1回戦

当山小学校 18―8 長崎選抜
窪スポ少 18―9 安堵の里
田　辺　東 21―9 長万部
田辺選抜 15―4 塩山ハンド

▼準決勝

当山小学校 13―10 窪スポ少
田　辺　東 14―13 田辺選抜

▼3位決定戦

田辺選抜 16―8 窪スポ少

▼決勝

当山小学校 15―11 田　辺　東

◎女子

▼予選リーグ

▽aブロック

明野西ハンド（大分）33―2 瀬戸オールスターズJr（岡山）
明野西ハンド 19―2 埴生小学校（長野）
埴生小学校 5―2 瀬戸オールスターズJr

▽bブロック

安堵の里（奈良）8―4 塩山スポ少（山梨）
安堵の里 18―6 東安居スポ少（福井）
塩山スポ少 12―4 東安居スポ少

▽cブロック

花園ハンド（熊本）14―2 田辺東小学校（京都）
花園ハンド 13―5 愛知県ハンド（愛知）
田辺東小学校 19―13 愛知県ハンド

▽dブロック

笹川ハンド（三重）17―4 明石ハンド（兵庫）
笹川ハンド 13―12 延岡小ハンド（宮崎）
延岡小ハンド 17―5 明石ハンド

▽eブロック

浦添宮城小（沖縄）11―6 田辺町選抜（京都）
浦添宮城小 23―10 甲田ハンド（広島）
田辺町選抜 13―8 甲田ハンド

▽fブロック

仏生寺スポ少（富山）13―7 大浜キッズ（大阪）
仏生寺スポ少 36―3 香川町オリーブ（香川）
大浜キッズ 29―2 香川町オリーブ

▼1回戦

花園ハンド 19―10 安堵の里
浦添宮城 6―3 笹川ハンド

▼準決勝

花園ハンド 14―13 明野西
仏生寺 13―12 浦添宮城

▼3位決定戦

明野西 19―9 浦添宮城

▼決勝

花園ハンド 21―6 仏生寺

関東

群馬県中学校総合体育大会

（日時／会場不明）

◎男子

▼1回戦

桐東中 16―11 前一中
藤北中 17―13 下東中
富西中 21―7 松南中
富南中 28―9 相生中
藤南中 22―12 前七中
南八中 19―16 下西中

▼2回戦

富東中 25―9 桐東中
富西中 24―8 藤北中
富南中 31―15 藤南中
富岡中 26―14 南八中

▼準決勝

富東中 11―9 富西中
富南中 15―12 富岡中

▼決勝

富東中 19―11 富南中

◎女子

▼1回戦

塚沢中 20―5 倉渕中

▼2回戦

富南中 23―9 塚沢中
富岡中 31―4 相生中
富東中 33―2 桐東中
富西中 19―1 高南中

▼準決勝

富岡中 18―17 富南中
富東中 21―5 富西中

▼決勝

富東中 13―10 富岡中

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三四六号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成六年九月二十六日　印刷
平成六年十月一日　発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表　三四八一―二三六一
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人　中澤重夫
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）